

客 車	客 車	皇室用客車
		営業用客車
		事業用客車
	電 車	電 動 車
		制 御 車
		付 随 車
	気動車	動 車
		気動制御車
		気動付随車
貨 車	有がい貨車	タンク貨車
		無がい貨車
	ホッパ貨車	事業用貨車

(電車および気動車を含めて呼ぶ客車と、これらを含めないで呼ぶ客車とが、まぎれやすい場合には、その区別を明らかにする必要がある。)

車両は鉄道輸送を行う上に必要かくべからざるもので、輸送量と車両数とは内容物と容器の關係に似て、たがいに密接な関連がある。輸送量が国力の発展とともに増大してくるとともに、車両もわが鉄道の発足以來量的・質的に向上の途をたどってきた。

わが国の機関車は狭軌という制約のもので、永年の努力によって現在においては世界に誇り得る水準に達している。昭和23年に蒸気機関車の形式廃車を行って、現在は36形式に減じ、両数こそ少し減少したが質的には向上している。電気機関車は戦後電化の急速な進展に伴ない、増加の一路をたどっている。客車においては明治年間には現在の貨車のような2軸車、3軸車を主としていたが、明治42年ボギー車を基本形式とし、さらに昭和2年には鋼製車を基本とし、昭和25年以来、木製車を掃する計画を立て昭和30年度をもって、営業用からは姿を消すこととなった(*鋼体化改造(車両の))。貨車においても大形化することにより、積荷1トン当りの自重を減じ新製費はもちろん、修繕費も運転費も割安とすることができるため、漸次大形化の道をたどり、現在では15t車が基本となっている。近年閑散線区の合理化ならびにサービス向上がさげばれ、ディーゼル動車の増加が大きく、また機関車においても、ディーゼル電気機関車が昭和27年に3両製作された。(横山勝義)

しゃりょういどうき 車両移動機 (英)shunter 貨車の入換を行う機械であって、手押入換が直接人力によって手や肩で車両を押して貨車を移動する代りに、機械を使用して少人数で簡単に能率的に行えるようにした機械である。

現在使用されているものは、車輪・台枠(だいわく)を備え、台枠の上にガソリンエンジンとジャッキを設け、ジャッキを貨車の自動連結器のひじ下面にかみ合わせ、これを高上して、貨車の重量の一部を車両移動機に負担させ、粘着重量の増加をはかり、貨車1両ぐらゐの移動の行えるようにしたもので、側線内においてのみの貨車の移動に使用される。→貨車移動機。(三和達忠)

しゃりょうかいそうりょう 車両回送料 客車その他の(貨車以外の)車両を貸切扱とした場合で、これを他駅から回送後、申込者のつごうによって、その申込を取消した場合、その回送区間および返送区間の全キロ程について収受する車両の回送料、ならびに国鉄において運輸上または設備上支障がないと認めた場合において、旅客の申出により、滞留中の貸切車に対して機関車または暖房車によって蒸気暖房を行うため、機関車をもよ

の機関区から回送し、もしくはもより機関区へ返送する場合または暖房車牽引(けんいん)用機関車を運転する場合、その回送・返送または運転区間の全キロ程について収受する料金をいう。

客車の回送料は貸切扱の取消により、当該車両について国鉄の得べかりし収入を失うこととなるため、その収入の確保をはかる手段として、回送または返送区間の全区間について、当該車両の運行を行うに必要な経費に相当する額をもって回送料としており、機関車の場合は機関車の回送に要する経費を補填(ほてん)するため、当該機関車の回送または返送の全区間について、その運行を行うに必要な経費に相当する額をもって回送料としている。

現行回送料はつぎのとおりである。

- 1 客車・電車・気動車・荷物車および食堂車については、1両1kmにつき50円。
- 2 機関車については、1両1kmにつき160円。

なお貨車については*貨物諸料金。国鉄自動車については*自動車貨物運賃料金(国鉄の)。(平林喜三造)

しゃりょうがかり 車両掛 客貨車区・客車区・貨車区における職で、客貨車検査掛の指揮をうけて、客貨車の検査(列車検査・仕立検査・滞留検査・局部検査・臨時検査・運転検査等)修理作業および蓄電池機器の保守および充電の作業に従事するものである。整備掛の職を経て、鉄道教習所の客貨車科を修了するか、車両掛採用試験に合格したものから採用する。(加藤誠次郎)

しゃりょうかんさいん 車両監査員 国鉄の車両の保守および運用の向上をはかるため、昭和25・4に鉄道管理局に設置されたもの。運転部または運輸部に所属し、部長の指揮を受けて(1)車両の検査・修繕および配置の監査 (2)車両状態の監査 (3)機関車の使用および動力車乗務員の技術指導の監査 (4)車両の機能発揮および保守上の取扱に関する監査 (5)車両用油脂・かん用水および動力車用燃料の使用および取扱の監査 (6)車両の保守・配置・使用に関する達示等の履行の監査 (7)車両故障防止の監査を行うことを任務としている。

車両監査員の数は1人～4人(1局平均2人)で総数は約60人。任命は、鉄道管理局長が行う。(宮坂正直)

しゃりょうかんさんほう 車両換算法 車両(客車・貨車・機関車)の自重は、同一形式のものでも多少の相違がある。まして形式の異なる車両に乗客・乗務員・積荷のほか燃料・水などを積載した場合、その実重量を算出することはすこぶる困難である。

このような車両を何両か連結して列車を組成した場合、また解結した場合に、そのつどの列車総重量は簡単に算出できない。

車両換算法は、列車総重量の近似値を容易に計算できるように定めたものである。

車両の換算両数は主として自重・総重量によって定めてあり、**空車換算と積車換算**の2種類に分けられている。またべつに機関車・試験車・展望車・食堂車などのように、構造により積車空車の別を設けずすべて積車の換算両数によることになっているものもある。

自重・総重量とも10tを換算両数1両とし、積車・空車換算とも小数点以下は1位でとどめることになっており、皇室用客車を除きこの換算両数を車体に標記するよう定めてある。

客車・貨車・機関車の換算両数算出方法その他はつぎのとおりである。

- 1 客 車
- (1) 空車換算は自重および構造で定められている。ただしボ